

いもかわ

芋川災害復旧助成事業及び芋川河川災害復旧等関連緊急事業

受賞機関 秋田県

はじめに

一級河川子吉川水系芋川は、秋田県南西部に位置する全長44.3kmの一級河川である。この芋川は、川幅が狭く激しく蛇行を繰り返す川のため、毎年のように沿川各地で洪水氾濫が発生していた。

このため、平成10年8月の梅雨前線豪雨による災害を契機に、最も大きな被害を受けた大内町市街地が位置する区間を「災害復旧助成事業」とし、助成事業下流端から子吉川合流点までの区間を「河川災害復旧等関連緊急事業」として、上下流一貫した河川改修事業を進めることとなった。

事業概要

災害復旧助成事業

事業期間：平成10年度～平成14年度

事業延長：L = 2.76km

事業費：66億円

河川災害復旧等関連緊急事業

事業期間：平成11年度～平成13年度

事業延長：L = 7.14km

事業費：240億円

事業の特徴

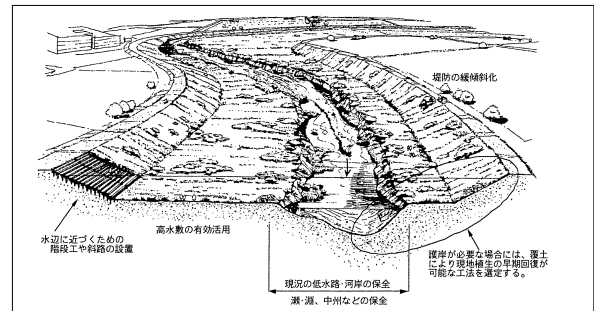
大きく蛇行を繰り返す芋川は、良好な瀬や淵を形成し、また、水際は低木や水草が繁茂し、多様な生物の生息の場となっていた。しかし、工事は現在の川幅を2～3倍に拡幅する大規模な掘削を伴うものであり、生物にとって優れたこの環境をどのように保全するのか、また、地域と川とが疎遠となっている現状のなかで、どのようにして「身近な芋川」とす



水際の植生・河畔林の保全



コンクリート解体材と間伐材による木柵工



河川環境の整備と保全のイメージ

るかが課題となった。そのため、事業の実施にあたり「自然豊かで人と川がふれあえる川」「地域に根ざした川」づくりを目指した。

自然豊かな川とするために、現河道を尊重した河道計画とし、低水路を掘削しないことで水際の植生や河畔林の保全を図った。さらに、コンクリート解体材や地場産間伐材を利用した多孔質な護岸を設置し、現地表土による覆土や柳の植樹により水際の自然環境の復元を図った。また、自然観察園やワンドなどを整備し、利用者の立場に立った施設とすることで、誰もが川に親しめるようにした。

芋川では、地域に根ざした川づくりを目指すため、住民との勉強会やイベント等を積極的に取り組んだことにより、地域住民が主体となった「芋川を楽しむ会」という川づくり協議会が設立された。今後は、保全・復元した河川環境や整備した施設が良好な状態で維持され、地域の人々に愛され活用される芋川となるよう、この協議会と緊密な連携を図って行きたいと考えている。